

# 溶解炉用のバイオ燃料開発

## ヤシ殻由来 25年、自社で使用開始

トヨタ自動車グループのアイシンの子会社アイシン高丘は二十八日、ヤシ殻由来で、**鑄鉄を溶かす際に使うバイオ燃料を開発したと発表した。**従来の石炭コークスの代わりに使用でき、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）への貢献が期待される。

同社は年間約二十一万トンの二酸化炭素を排出。このうち半分近くが石炭コークスの燃焼で発生している。鑄物業界では、木質燃料を代替にする取り組みがあるが、熱量の不足などが課題だった。

このため、油分を多く含むヤシ殻に着目。炭化して粉碎

## アイシン子会社

したヤシ殻を成型し、蒸し焼きにしてコークス化することで、世界で初めて高熱量のバイオ成型炭にすることに成功した。

七月に本社工場で実施した試験で、石炭コークスと同等の品質が確認できたという。ヤシ殻はインドネシアなどで

パーム油の精製過程で排出されるが、多くが廃棄物になっている。

二〇二四年にバイオ成型炭の生産を始め、二五年には本社工場での使用を開始。三〇年までに量産ラインを導入し、他社への販売も進める。試験では燃料の50%をバイオ成型炭に置き換えたが、今後は100%を目指す。

鑄物業界は、小規模な企業が多く、巨額の投資が必要な生産設備の入れ替えによる二酸化炭素排出削減は難しい。バイオ成型炭は、既存の鑄鉄溶解炉キュポラをそのまま使える。内田信隆社長は「投資ができない会社はたくさんある。（業界の）先を走るリーダー企業として大きく貢献できる」と述べた。



アイシン高丘の鑄鉄溶解炉キュポラ

愛知県豊田市のアイシン高丘の本社で